

沼津市

明治史料館通信

1994. 4. 25 (季刊 年4回発行) Vol.10 No. 1 通巻第37号



『駿豆新聞』
明治45年創刊



『沼津新聞』
明治14年創刊



『岳南日報』
明治25年創刊

古い新聞をお持ちの方は、
明治史料館に御一報下さい。
原本もしくは、マイクロ
フィルムで保存・公開がで
きるようにしたいと思います。
ます。

ぬまづ近代史点描 ⑳

明治期沼津で発行された新聞

静岡県における新聞のはじまりは明治六年（一八七三）二月創刊の『官許静岡新聞』であるが、沼津におけるそれは遅れること八年、明治十四年（一八八一）七月三日創刊の『沼津新聞』である。

『沼津新聞』を発刊した沼津新聞社は沼津上土町にあり、編輯人は山本達也、印刷人は竹内正齋、編輯人は後に喜多山正誼・永峯就正・横井保久と替わった。山本は民権運動家、喜多山は沼津兵学校第五期資業生の出身、竹内は沼津兵学校第六期資業生で西南戦争で戦死した竹内有好の嗣子、他の顔触れも士族であろう。社員・記者・株主には間宮喜十郎・碓俣三郎・仁王藤八・石井弥一郎といった地元の人・有力者がいた。

『沼津新聞』は明治十六年四月一五九号で廃刊した。その後沼津で発行された新聞が『岳南日報』である。明治二十五年（一八九二）に創刊され、二

十七年に静岡へ移転し『東海公論』と改称するまで続いた（同紙はその後『静岡新報』となる）。会社は沼津町上本町にあり、主筆は山岡昂三、社長市河篤造、副社長長倉誠一郎、印刷人喜多山正誼であり、

自由党系の人々によって担われた新聞であることがわかる。『沼津新聞』は月に六から十回の発行であったが、『岳南日報』は日刊だった。しかし現存するものが少なく残念である。

その後『駿豆新聞』が明治四十五年（一九一三）四月十五日に創刊されたことが知られる。駿豆新聞社は沼津町城内にあり、発行兼編集人川村繁則、印刷人笠井浜吉、日刊紙であった。

大正期に入ると、『駿豆新報』（大正八年）・『沼津新報』（九年）・『沼津毎日新聞』（十五年）・『沼津日日新聞』（十五年）などが創刊される。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

34

御貸人

その二

静岡藩は徳川幕府という国家機構が縮小・転生したものであり、その藩士には国政・外交に関与した者、国家的な見地から学問研究や軍制改革などに取り組んだ者が少なくなかった。

やがて彼らは廃藩によって（あるいは廃藩を待たずに）、明治政府への出仕という形で再び国家への参加を果たすことになる。

しかしその前段階ともいえるべき事象として、他藩への「御貸人」がある。静岡藩では自藩の有能な人材を他藩へ貸し出したのである。藩体制の廃止が目前に迫っている中で、個別の藩に対する応援を行うというのは時勢に逆行しているようでもあるが、各藩にとってはまだ独力で富国強兵を目指す立場にあり、その手助けをするのは旧幕府としての静岡藩ならではの力量を示す行為であった。七十万石に圧縮されてしまった静岡藩にとって、御貸人は「人減

らし」の意味もあったのかもしれないが、それよりも各藩が必死に新時代に対応しようとする努力とそれに応えるべく自分の能力を生かそうとした静岡藩士の心意気という、積極面にこそ注目する必要があるだろう。

沼津兵学校からの御貸人はまさにそのことを表している。徳島藩と鹿児島藩では御貸人の指導によって沼津兵学校・同附属小学校に做った学校制度を整えている。

徳島・鹿児島藩の場合ほどには影響を与えなかったかもしれないが、静岡藩からの御貸人の派遣は次ページの表の通り二十一藩にも及んだ。

いずれも各藩の目的は、洋学校開設・仏式歩兵伝習・航海術教授といったことであつた。幕末の遣欧使節団に参加した太田資政（源三郎）は英語を教えるため福井藩に招かれ、沼津兵学校第二期資業生吉村幹は英学者として柳川藩に



和歌山藩への御貸人
関 迪教



福井藩への御貸人
太田 資政



鹿児島藩への御貸人
名村五八郎

招聘された。鹿児島藩のように、医学修行のために留学にきた静岡藩士（沼津兵学校第四期資業生志村貞鏡）を逆に算術教師として扱き使うといった事例もあり、英学・数学に優れた者が引つ張りだった当時の状況が伺える。御貸人が派遣された時期は、明治元年・二年といった早い時期もあるようだが、明治三年（一八七

静岡藩の御貸人

| 派遣先 | 派遣時期 | 沼津兵学校 | 静岡学問所 | その他 | 計 |
|------|---------|-------|-------|-----|----|
| 弘前藩 | 明治3.11. | 1 | 3 | — | 4 |
| 米沢藩 | 明治4.4. | — | — | 1 | 1 |
| 守山藩 | 明治4.3. | — | — | 2 | 2 |
| 与板藩 | 明治4.3. | — | — | 4 | 4 |
| 高德藩 | 明治4.3. | — | — | 7 | 7 |
| 宇都宮藩 | 明治4.3. | — | — | 2 | 2 |
| 一宮藩 | 明治4.3. | — | — | 1 | 1 |
| 松代藩 | 明治1.12. | — | — | 1 | 1 |
| 福井藩 | | — | — | 1 | 1 |
| 鯖江藩 | 明治4.3. | — | — | 3 | 3 |
| 津藩 | 明治4.3. | — | — | 2 | 2 |
| 尼崎藩 | 明治4.4. | — | — | 2 | 2 |
| 和歌山藩 | 明治3.12. | — | — | 3 | 3 |
| 岡山藩 | 明治4.5. | — | — | 2 | 2 |
| 津山藩 | 明治4.6. | — | — | 1 | 1 |
| 鳥取藩 | 明治3.5. | — | — | 3 | 3 |
| 松江藩 | 明治4.3. | 2 | — | 2 | 4 |
| 徳島藩 | 明治3.11. | 3 | — | 2 | 5 |
| 高知藩 | 明治2. | — | — | 1 | 1 |
| 柳川藩 | 明治4.6. | 1 | — | — | 1 |
| 鹿児島藩 | 明治3.10. | 9 | 1 | 4 | 14 |
| 計 | | 16 | 4 | 44 | 64 |

○）秋から翌年春までがピークだったと言えようか。廃藩まで一年にも満たない期間であるが、中には置県後も引き続き残留した者もある。明治三年十一月に弘前藩に招聘された静岡学問所三等教授宮崎立元は、翌年四月まで同藩の敬應書院において約三十名の生徒に漢学を教えたが、七月には再び弘前に招かれている。

鹿児島藩に赴いた沼津兵学校第四期資業生吹田鯛六は同藩について「学校者余り盛んにて者無之」「人物者一人も無之様子」という感想を抱いているが、逆に同藩の質実剛健な士風には好感を持ち、影響を受けたようである。御貸人の効果は一方的なものではなく相互補完的なものでもあった。「御貸人」には自藩のみに人材

を縛りつけておこうというケチな発想はなかった。『参考文献』宮地正人「八王子千人隊の静岡移住」、『静岡県近代史研究』15、鈴木栄樹「公文書」中にみえる静岡藩の「御貸人」たち」『静岡県近代史研究会会報』14 7、樋口雄彦「静岡藩士の鹿児島だより― 柏木忠俊宛吹田鯛六書状―」、『葦山町史の葉』15ほか

お知らせ欄

◎ビデオ「沼津の戦争史跡を訪ねて」

当館ロビーでは自動検索によるビデオ装置により沼津の歴史に関するオリジナル作品を見ていただいておりますが、今回新たな作品が一本加わりました。

「沼津の戦争史跡を訪ねて」というタイトルの作品で、沼津市内に残る昭和の戦争に関わる史跡について、その由来や意味を解説・紹介したものです。一〇分程度の上映時間ですが、地域における戦争の意義を考える上で手掛かりとしていただければ幸いです。来館の際には是非ご覧ください。

◎ゴールデン・ウィーク中の開館について

休館日：4月30日(土)、5月2日

(月)、6日(金)

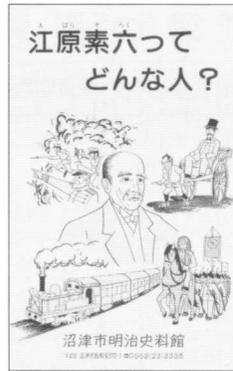
これ以外は開館します。

◎5月19日は無料開館日

江原素六が亡くなった5月19日は、記念日として観覧料が無料となります。墓前では江原素六先生顕彰会による記念祭が行われます。

◎江原素六について紹介したやさしい解説書があります

江原素六について小学生にもわかる程度にやさしく解説したパンフレットを用意しております。ご活用下さい。



◎『沼津市博物館紀要18』の刊行について

体裁：B5版 八〇ページ
頒価：一五〇〇円。
内容：増島淳「曾利V式(連八紋)土器の胎土分析」、瀬川裕一郎「土器の胎土分析1」、上野裕二「富士山縁起と竹取伝承」、樋口雄彦「近代

◎資料閲覧室はこのように利用されています

当館2階にある資料閲覧室は、所蔵・保管する文書資料・図書資料・マイクロフィルムなどを公開する場であり、博物館における展示以外の機能として重要なものです。最近のレファレンス例を紹介してみましよう。

- ・自分の家の墓地の敷地について古文書で確認したい(市内・男性)
- ・近代の女性史を調べるため新聞のマイクロフィルムを見たい(清水町・女性)
- ・江原素六に関する本を見たい(市内・中学生)
- ・茶業の歴史について文献から調べたい(函南町・国家公務員)
- ・浮島沼の干拓について調べたい(市内・小学生)
- ・金岡地区の寺院・神社について調べたい(市内・短大生)
- ・学校でのグループ学習で明治時代の教科書のコピーがほしい(市内・小学生)
- ・旧幕臣だった先祖について調べたい(小山町・男性)

・郷土研究部で戦争について調べたいが参考になる資料がほしい(市内・高校生)

◎平成五年度調査・視察来館者抄録

- 5・1 霞会館
- 6・6 裾野市史編さん調査委員
- 8・2 沼津市史編纂近代部会委員
- 8・6 葦山高校百二十年史編集委員
- 8・7 麻布学園百年史編纂委員
- 9・11 沼津市史編纂近代部会委員
- 10・29 同右民俗部会委員
- 11・3 同右近代部会委員
- 11・18 葦山町史編纂協力委員
- 1・25 焼津市文化財保護審議会
- 2・26 沼津市史編纂近代部会委員
- 3・10 新潟市史編纂室
- 3・17 静岡県立大学前山亮吉氏
- 3・29 八千代市史編纂担当

沼津市明治史料館通信 第37号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂三七二-1
電話 〇五五九-三三三三五
FAX 〇五五九-一五三〇一八